

2019 年難民関連文献一覧

※日本語で執筆された文献のみを取り上げる。また、難民に関する全ての国内図書、雑誌を網羅しているわけではない。図書については、難民に関する章を含む関連学術書も記載する。

【図書】

- 石井香世子＝小豆澤史絵『外国につながる子どもと無国籍：児童養護施設への調査結果と具体的対応例』明石書店
- 石井正子＝中川理『移動する人々：多様性から考える』晃洋書房
- ウェンディ・パールマン／安田菜津紀＝佐藤慧共訳『シリア 震える橋を渡って：人々は語る』岩波書店
- 内海成治『ボランティア・難民・NGO：共生社会を目指して』ナカニシヤ出版
- 小俣直彦『アフリカの難民キャンプで暮らす：ブジュラムでのフィールドワーク 401 日』こぶな書店
- 川村真理『難民問題と国際法制度の動態』信山社
- 小泉康一編『「難民」をどう捉えるか：難民・強制移動研究の理論と方法』慶應義塾大学出版会
- 近藤敦『多文化共生と人権：諸外国の「移民」と日本の「外国人」』明石書店
- 澤村信英編著『発展途上国の困難な状況にある子供の教育：難民・障害・貧困をめぐるフィールドワーク』第 1 部
「難民の子どもの教育」明石書店
- 田巻松雄『ある外国人の日本での 20 年：外国人児童生徒から「不法滞在者」へ』下野新聞社
- 内藤正典『外国人労働者・移民・難民ってだれのこと』集英社
- 中谷哲弥『インド・パキスタン分離独立と難民：移動と再定住の民族誌』明石書店
- 中坪央暁『ロヒンギャ難民 100 万人の衝撃』めこん
- ニケシュ・シュクラ／栢木清吾訳『よい移民：現代イギリスを生きる 21 人の物語』創元社
- 星野俊也＝大槻恒裕＝村上正直＝大久保邦彦編『グローバリズムと公共政策の責任(3)：自由の共有と公共政策』大阪
大学出版会
- 宮島喬＝佐藤成基『包摂・共生の政治か、排除の政治か：移民・難民と向き合うヨーロッパ』明石書店
- ミシェル・アジェ／吉田裕訳『移動する民：「国境」に満ちた世界で』藤原書店
- 望月優大『ふたつの日本：「移民国家」の建前と現実』講談社
- 山岡健次郎『難民との友情：難民保護という規範を問い直す』明石書店

【論文】

- 秋山肇「自由権規約における子どもの国籍取得権と国家の義務：自由権規約第 2 条の観点から」『国際人権』30
号、115～119 頁
- 秋山瑞季「我が国の難民認定制度」『レファレンス』69 巻 5 号、79～90 頁
- 阿部浩己「難民認定における『国内保護可能性（IPA）』」『法学雑誌』65 巻 3・4 号、870～845 頁
- 阿部吉雄「上海のユダヤ人難民社会における冬期貧民救済事業（1943～1944 年）」『言語科学』54 巻、65～75 頁
- 安藤由香里「国際機構は『人の移動』にどのように取り組んできたのか」『グローバル・ガバナンス』5 号、66～82
頁
- 石村修「難民庇護か移民緩和か：EU 内圧力に揺れるドイツ憲法」『現代の理論』2019 夏号、143～149 頁
- 伊藤頌文「キプロス紛争における現状と利害関係国の役割：『凍結された』民族紛争を巡る一考察」『国際情勢』89
号、73～81 頁

- 井本佐保里ほか「難民キャンプにおける居住者による居住環境整備手法に関する研究：カクマ難民キャンプ南スーダンの事例を通して」『日本建築学会計画系論文集』84巻764号、2037～2046頁
- 内田勝巳「タイのミャンマー移民・難民に関する中間調査報告：国境の町に住むミャンマー人の現状」『摂南経済研究』9巻1・2号、75～91頁
- エイサー・ユースル／西原誠司＝クトウルック東突共訳「トルコの困った隣国：シリアとシリア難民危機」『鹿児島経済論集』59巻3・4号、291～323頁
- 大西楠テア「ドイツの難民受け入れ政策にみられる新たな傾向：難民の社会統合による『危機』の克服？」『上智ヨーロッパ研究』12号、37～45頁
- 片雪蘭「『場所』と『非場所』のはざまに生きる：北インド・ダラムサラにおけるチベット難民『サンジョル』を事例に」『南方文化』45輯、19～42頁
- 加藤壮一郎＝水島治郎＝嶋内健「デンマーク・社会住宅地区におけるゲッターゼーション：社会住宅地区への複合的な政策アプローチの変遷と現状」『住総研研究論文集・実践研究報告集』45巻、165～176頁
- 加藤めぐみ「山々よりほかに友なき難民：ベフルーズ・ブーチャーニの難民収容所文学試論1」『南半球評論』35号、33～45頁
- グドゥルン・ビッフル／田中達也訳「難民移住に関するデータと事実：成人教育システムおよび雇用システムの課題」『釧路公立大学地域研究』28号、141～154頁
- 可部州彦「スウェーデン 難民受け入れ後の新たな就労支援策：ユースダール市の X-Support プロジェクト」『カルチュール』13巻1号、91～99頁
- 川久保文紀「グローバル時代の人の移動：移民と難民の揺らぐ境界」『国際政治』196号、155～164頁
- 興津征雄「グローバル行政行為？：難民認定をめぐる国家と UNHCR の権限の相剋」『横浜法学』27巻3号、291～342頁
- 小泉浩一「インドシナ難民に対するわが国の対応と公的および民間支援の実際：1970年代から1990年代の変遷を中心に」『敬心・研究ジャーナル』3巻2号、91～99頁
- 小林周「中東・アフリカからの非正規移動と EU の外交・安全保障政策」『国際安全保障』46巻4号、32～47頁
- 坂上勝基「ウガンダ北部の難民受入地域への教育援助に関する一考察：初等学校の教員と児童の視点に着目して」『アフリカ教育研究』10号、78～92頁
- 佐藤以久子「スウェーデンにおける移民・難民の就労：循環移民への挑戦」『桜美林論考 法・政治・社会』10号、40～59頁
- 佐藤夏樹「エルサルバドル『難民』問題とラティーノ活動家ネットワークの形成：エルサルバドル連帯組織 CISPES の連帯運動を中心に」『社会科学』49巻1号、97～113頁
- 佐藤美央「国際的な人の移動の潮流と課題」『統計』70巻1号、2～8号
- 佐藤雪野「移民・難民統合における行政と NPO：旧東ドイツ・ハレ（ザーレ）市の事例」『国際文化研究科論集』27号、31～40頁
- 嶋田晴行「ドイツの『難民』問題とアフガン人の位置：『二級』市民が意味するもの」『立命館国際研究』31巻3号、55～75頁
- 鈴木隆弘「開発教育における難民問題学習とその課題：難民問題学習教材の分析を通じて」『開発教育』66号、92～103頁
- 鈴木滋「トランプ政権の国境管理政策：安全保障上の観点から」『国際安全保障』46巻4号、17～31頁
- 宗田勝也＝山口洋典「声を伝える活動がもたらす新たな活動主体形成のプロセス：難民問題専門情報番組『難民ナウ!』を事例に」『ボランティア学研究』19巻、75～86頁

丹野清人「外国人の『シティズンシップ』行政運用と社会運動の間に生まれる市民権」『福祉社会学研究』16巻、13～31頁

土谷岳史「EUにおけるロマ：『包摂』と『分断』の境界」『高崎経済大学論集』62巻1号、49～66頁

菅野賢治「JDC資料に見る戦時期日本のユダヤ難民救援活動一端緒の時期：1939年12月～1940年6月」『ナマール』24号、19～40頁

昔農英明「ドイツの難民保護とレイシズム：ケルンの性的暴行・強盗事件の事例を中心に」『年報社会学論集』32号、52～60頁

昔農英明「リベラルな国家における難民管理の境界の構築：ドイツの難民に対する「歓迎文化」と排外主義の交錯の中で」『大原社会問題研究所雑誌』734号、77～89頁

陶山宣明「ニュージーランドの移民・難民政策」『日本ニュージーランド学会誌』26巻、25～32頁

中坂恵美子「EUと難民問題」『論究ジュリスト』2019年夏号、51～58頁

中村雅治「ヨーロッパ化の中でフランスの移民・難民政策を考える」『上智ヨーロッパ研究』12号、17～35頁

名波彰子「難民に対する就労支援活動」『ニュージーランド研究』25号、11～17頁

難波満「シリア難民不認定処分無効確認等請求訴訟〔東京地裁 2018.3.20 判決、東京高裁 2018.10.25 判決〕」『国際人権法学会報』30号、77～81頁

墓田桂「序論：安全保障の課題としての越境・難民問題」『国際安全保障』46巻4号、1～16頁

荻野晃「ハンガリーにおける欧州議会選挙（2019）と難民問題」『上智ヨーロッパ研究』12号、99～115頁

荻野剛史「難民の『統合』に対する促進要因・阻害要因：スウェーデン在住のベトナム難民の経験から」『東洋大学社会学部紀要』56巻2号、59～69頁

橋本茉莉「難民の実践にみる境界と付き合う方法：ウガンダに暮らす南スーダン難民の相互扶助組織を事例として」『質的心理学研究』18号、76～94頁

日尾野裕一「ブファルツ難民のジャマイカ入植計画：帝国・難民・入植」『多元文化』8号、93～111頁

アレス・ブカー・ラクマン／金城真理＝青木秀男訳「ヨーロッパにおける移民排除と安全保障・軍事化政策：2015年・2016年におけるスロベニアの難民問題を事例として」『部落解放研究』25号、143～172頁

福王守「出入国在留管理基本計画の策定と外国人の人権保障：中長期在留者の受入れ拡大をめぐる法比較の考察」『駒沢女子大学研究紀要』26号、35～48頁

藤井樹也「移民・難民の身体拘束事例における回避法理」『成蹊法学』91号、55～79頁

藤田恭子「ドイツにおける教員不足問題：移民・難民の社会統合に関する研究のための予備的考察」『国際文化研究科論集』27号、15～30頁

堀井里子「EU 国境管理ガバナンスにおける NGO の役割：地中海での搜索救難活動を事例として」『国際政治』196号、65～80頁

西田哲史「逃亡と追放 ドイツ人難民・被追放民の西ドイツへの受容 1939-1952：占領期およびドイツ連邦共和国初期の時代を中心に」『創価経済論集』48巻1～4号、97～131頁

増原善之「ある越境者の半生ともう一つのインドシナ現代史」『島根県立大学松江キャンパス研究紀要』58号、103～113頁

三好範英「越境者の流入と欧州ポピュリズムの台頭」『国際安全保障』46巻4号、48～66頁

村橋勲「難民登録とインフォーマル・エコノミー：ウガンダの「カードゲーム」の実態と影響」『アフリカレポート』57号、80～86頁

村主道美「ロヒンギャ問題におけるカナダと日本の相違」『学習院大学法学会雑誌』55巻1号、193～231頁

メスロビアン・メリネ「二〇世紀初頭の日本とアルメニア難民：ディアナ・アプカーの役割を中心に」『渋沢研究』31号、65～85頁

望月葵「現代シリアの権威主義体制の変容とその限界：なにがシリア難民問題をもたらしたのか」『イスラーム世界研究』12巻、189～200頁

森恭子「スウェーデン、ウプサラ市における社会統合に向けた取り組み：市役所、SFI、公立学校への聞き取り調査より」『人間科学研究』41号、85～93頁

森千香子「フランスにおける『移民・難民危機』と尊厳：抵抗運動の背景としての『移民難民をめぐる政治』」『年報社会学論集』32号、34～43頁

八木澤克昌「タイのスラムと移民労働者・難民問題：背景とその現状」『バンコク日本人商工会議所所報』681号、43～49頁

八十田博人「イタリアの移民政策の転換：2017年以降の規制強化」『上智ヨーロッパ研究』12号、47～64頁

湯浅典人「トルコにおけるシリア難民と労働をめぐる課題」『文京学院大学人間学部研究紀要』20巻、85～92頁

【研究ノート】

王柯「恐怖からの脱出：ウイグル人亡命者の選択」『神戸大学大学院国際文化学研究科紀要』53巻、37～54頁

向井洋子「移民・難民の流入と福祉政策の行方：2018年スウェーデン総選挙とアメリカ2018年中間選挙から」『海外事情研究』46巻、123～132頁